

自分を理解することが課題解決の第一歩

高等部保健理療科・専攻科生は年齢だけでなく、障害の程度や発症時期なども様々です。学校や職場が適切な支援を行うためにも、まずは障害を含む「自己理解」が大切です。「視力や視野の程度」「体調」「できること、できないこと」など、自分がどのような状態であるか、何が困難であるかを理解し、それを他者に伝えられることが求められます。そのような自己理解、自己表現を通じて、学校や職場は支援の方法や、視力を補うための技術（視覚補助具の活用等）を指導・支援することができます。一見当たり前のことですが、刻々と進行していく障害と向き合い、受容することは簡単なことではありません。しかし「自己理解」がなければ、課題や目標設定を誤り、自立だけでなく知識や技術の習得にも支障をきたすこととなります。専攻科に入学する生徒は、未成年であっても社会人として扱われ、一般的な社会規範を求められます。規則を重んじ、指示がなくても自ら学び考察することや、自ら行動し、その行動を振り返り、課題を解決していく能力が必要となります。

常に、今の自分の課題は何か、どのように解決するかを考えながら過ごすことが大切です。保護者の皆様にも、お子様の自己理解や、その延長にある能動的思考・行動を促すような関わりをお願いしたいと思います。

